

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成					
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。					
本年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。</li> <li>○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。</li> <li>○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	A
				・具体的な対策の実施	A	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。  ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。  一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	(成果と課題) ○「ねらい」と「まとめ」のつながりを重視した授業を実践することができた。 ○iPadやEILSを積極的に活用したことで、学習への興味関心が高まった。 ○教師が、地域とのつながりを意識して授業等を実践したことで、宇和島市や校区に対する興味関心が高まった。 ●家庭学習については、個人差が大きく、教師・児童・保護者の意識が統一されていないため、定着が図られていない。 ●実際の読書量が評価に反映しづらくなっており、読書についての評価が学校・家庭ともに低下した。					
(改善策等) ◇少人数指導を効果的に行い、基礎基本の定着を図る。 ◇朝学習の際にEILSを活用し、効率的に学習を進める。 ◇学級で読み聞かせの回数を増やしたり、家庭への啓発をしたりして読書への関心を高める。図書委員会の全校児童への読み聞かせや集会等での啓発も実施する。また、みきゃん通帳の活用方法を改善し、正確に読書量を把握する。						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・児童生徒アンケート	A		
		・保護者アンケート	B		
	③ 基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B
・児童アンケート			B		
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート	B		
		・児童アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○異学年と交流したことによって、昨年度と比較して落ち着きを取り戻した学年がある。</p> <p>○教育の場が変わったことにより不登校が改善され、毎日登校できるようになった児童がいる。</p> <p>○生徒指導に関する校内の組織を再編成したことで、多くの問題に対して組織的な対応ができるようになった。また、校内でケース会議を開催し、積極的に関係機関とのつながりや今後の対応を検討することができた。</p> <p>●折に触れ生徒指導上の問題に対して指導を継続しているが、規範意識の向上が少なく、なかなかルールが定着しない。</p> <p>●自己肯定感と自己有用感については、昨年度と比較して若干低下している。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>◇称揚する場面を意図的に設定したり、タイミングよく褒めたりすることによって、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>◇「和霊小学校の3つの約束」を、全ての学級で意識させることで、規範意識を高める。</p> <p>◇学校全体が「プラスの言葉」を意識することで、安心して生活できる学校を目指す。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革に努めた。</u>	・教師アンケート	C	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、 <u>教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。</u>	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	<u>「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。</u>	・教師アンケート	A	A
	<p>(成果と課題)</p> <p>○多忙感はあるものの、昨年度同時期と比較すると、超過勤務時間は減少している。  ○業務改善のアイデアについて教職員から情報を収集し、できる範囲で業務改善に取り組んだ。  ○昨年度に引き続き、「和の雰囲気」の職員室となっており、温かい職場づくりができています。  ●個人差や時期的なものはあるが、超過勤務が80時間を超える教職員が複数いる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>◇CS協力員の人数を増やし、あらゆる場面において積極的に利用することで、教職員の負担軽減を図る。  ◇新型コロナウイルス感染症の5類移行をふまえて、行事のねらい、働き方改革の視点から学校行事の在り方を検討する。</p>				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	<u>全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。</u>	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○CS協力員を様々な場で宣伝し、協力員の募集を開始した。協力員総会を実施し、活動を開始した。  ○学校通信・学年通信・学級通信など、学校のことを広く保護者に知らせることができたことで、学校の教育活動への理解が深まった。特に、学校のホームページは積極的に更新し、好評を得ている。  ●ESDカレンダーを周知したが、積極的に活用するには至っていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>◇ESDカレンダーが形骸化することなく、ふるさと学習を積極的に推進するために、定期的に研修を行う。また、CS協力員活用と合わせ、地域の人材とつながる場を積極的に設ける。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満